

ひらやま その二

※ 文集冊子「ひらやま」の継続版として随時、児童の作品を掲載します。特に四月以降に学校で書いた作文や詩などで、表彰された作品や新聞等に掲載された作品などを紹介します。今回は、「宮崎日日新聞」に掲載された作品です。

「毎日お風呂掃除」

六年 赤澤 礼惟

ぼくには、家庭の中で毎日行っている役割があります。それは「お風呂掃除」です。

お風呂掃除は、ぼくが1年生のときからずっと続けています。始めたばかりのころは、お風呂を洗って、母や父から「よく頑張ったね」とほめられることを目的にしていました。しかし、今はちがいます。

ぼくは去年からじゅくに通い始め、とても忙しい生活をするようになりました。それでもお風呂掃除はなんとか時間をつくって継続しています。それは、自分を支えてくれている家族に感謝があるからです。両親は毎日じゅくへの送迎をしてくれたり、ぼくのじゅくのためにお金をはらったりしてくれています。そして妹は、ぼくが勉強をしていると、さわぐのをやめて静かにしてしてくれます。

これから先もさまざまなことで負担や迷わくをかけると思いますが、ぼくの「役割」であるお風呂掃除は毎日、心を込めながら続けていきたいです。



「良い行い続ける」

六年 小泉 傑

ぼくの1週間であったことを紹介します。

一つ目は、ゴミ出しです。ぼくは、最近ゴミ出しをしています。そしてゴミ出しが終わって学校の集合場所にいたら、重そうなゴミをかかえたお年寄りのおばあちゃんだったので、そのゴミをぼくが持って行きました。その後おばあちゃんが「ありがとう、ぼうやえらいね」と言ってくれたのでとてもすがすがしくて、今ではそのゴミ出しが日課になっています。

二つ目は生き物のことで、ぼくは虫や動物の命を大切にしています。よく虫取りをするけど必ず返しています。そして今日、授業が終わった後、ろう下にまどに向かって飛んでいるすずめがいたので、友だちといっしょににがしてあげました。とても役に立ったなと思いました。

これからもたくさん良い行いをして、しょう来につなげていきたいです。

